

■殺虫剤：農業用

有機リン系

トクチオン[®]乳剤

登録番号：13426
 毒性：－
 消防法：第2石油類
 有効年限：4年

成分 プロチオホス……45.0%
 物理的・化学的性状 淡黄褐色可乳化油状液体

包装：500ml×20 2ℓ×8

◆特 長

- 本剤は適用範囲が広い有機リン系殺虫剤で、残効性にも優れます。
- チョウ目害虫、アザミウマ類、コナカイガラムシ類等に優れた効果を示します。

◆適用と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	プロチオホスを含む 農薬の総使用回数
み か ん	コカクモンハマキ フラーバラゾウムシ	1,000倍	200～700ℓ / 10 a	収穫30日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
	フジコナカイガラムシ	1,000～ 1,500倍					
な し	コナカイガラムシ類 ハマキムシ類	1,000倍		収穫60日前 まで	5回 以内		5回以内
か き	カキノヘタムシガ フジコナカイガラムシ マイマイガ アザミウマ類 ハマキムシ類			収穫75日前 まで	2回 以内		2回以内
	く り			モノゴマダラノメイガ ネスジキノカワガ	裂果前まで (但し収穫 7日前まで)		5回 以内
キャベツ	コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ アオムシ ウワバ類 アブラムシ類			300倍	100～300ℓ / 10 a		収穫21日前 まで
	たまねぎ	アザミウマ類	25ℓ / 10 a		収穫7日前 まで	4回 以内	4回以内
らっきょう	ネダニ類	2,000倍	3ℓ / m ²	収穫75日前 まで	1回	株元灌注	1回
にんにく	ネギコガ	1,000倍	100～300ℓ / 10 a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回以内
に ら	ネダニ類	2,000倍	3ℓ / m ²	収穫21日前 まで	1回	株元灌注	2回以内 (土壌混和は1回 以内、株元灌注 は1回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	プロチオホスを含む 農薬の総使用回数
いちご	ハダニ類 キンケクチプトソウムシ成虫	1,000倍	100～300ℓ / 10a	収穫75日前 まで	3回 以内	散布	3回以内 (仮植床植付時の 土壌混和は1回 以内)
ばれいしょ	ジャガイモガ ヨトウムシ アブラムシ類			収穫14日前 まで			3回以内
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ			1,000～ 2,000倍			収穫21日前 まで
あずき	アズキノメイガ ツメクサガ ハダニ類	1,000倍		収穫30日前 まで	2回 以内		2回以内
だいず	マメシンクイガ	1,000～ 1,500倍			3回 以内		3回以内
	シロイチモジマダラメイガ ハスモンヨトウ アブラムシ類 ツメクサガ ハダニ類 カメムシ類	1,000倍					
てんさい	ヨトウムシ カメノコハムシ アブラムシ類	1,000～ 1,500倍	2回 以内	2回 以内			
	テンサイモグリハナハエ テンサイトビハムシ ハダニ類						
さとうきび	アオドウガネ ハリガネムシ類		1.8ℓ / m ²	収穫90日前 まで	2回 以内	土壌灌注	2回以内 (植付時の土壌混和 は1回以内)
茶	ハマキムシ類 チャノキイロアザミウマ カンザワハダニ チャドクガ	1,000倍	200～400ℓ / 10a	摘採21日前 まで	1回		1回
花き類・ 観葉植物 (ばら、きく、 プリムラ、シクラ メン、ペゴニア、 宿根かすみそうを 除く)	アザミウマ類 ハダニ類		100～300ℓ / 10a	発生初期	5回 以内	散布	5回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	プロチオホスを含む 農薬の総使用回数
ばら	アブラムシ類 フラーバラゾウムシ	1,000倍	100～300ℓ / 10a	—	5回 以内	散布	5回以内
きく	アザミウマ類 ハダニ類			発生初期			
プリムラ シクラメン ベゴニア	キンケクチプトゾウムシ成虫 アザミウマ類 ハダニ類			—			
宿根かすみそう	ヨトウムシ ナスハモグリバエ アザミウマ類 ハダニ類						
樹木類 (つばき類、さくら、 プラタナスを除く)	フラーバラゾウムシ		5回 以内				
つばき類	チャドクガ フラーバラゾウムシ		200～700ℓ / 10a	3回 以内	3回以内		
さくら プラタナス	アメリカシロヒトリ フラーバラゾウムシ			4回 以内	4回以内		
芝	シバツトガ		0.5～1ℓ / m ²	発生初期	3回 以内		5回以内
たばこ	タバコアオムシ ヨトウムシ アブラムシ類 ジャガイモガ アザミウマ類		25～180ℓ / 10a	収穫10日前 まで	2回 以内		2回以内

ラベルをよく読み、ラベルの記載以外には使用しないで下さい。

◆注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) ボルドー液および石灰硫黄合剤との混用は可能であるが、混合後は放置せずなるべく早く使用すること。
- (3) 芝に使用する場合は、土壌面までぬれるように十分な液量（0.5～1ℓ / m²）を散布すること。
- (4) 本剤の作用はやや遅効性であるので、害虫の発生をみたら早めに散布すること。
- (5) 茶のカンザワハダニの防除の場合、夏場からのハマキムシ類との防除適期が一致する時期に使用すること。
- (6) 茶の覆下栽培では薬害を生じる場合があるので使用しないこと。
- (7) さとうきびのハリガネムシ防除に使用する場合、夏植栽培では翌年の4～6月頃、株出栽培では萌芽後に所定希釈液を1m²当り1.8ℓ 灌注すること。
- (8) すいか、トマト、メロンには薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
- (9) たまねぎに対して希釈倍数300倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用すること。
- (10) にらに使用する場合は、前作のにらを地際から刈り取りした後、できるだけ速やかに株元灌注し、希釈液が直接茎葉にかからないよう注意すること。

- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (12) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
 - ③ 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (13) フラーパラゾウムシに使用する場合は、植物防疫所、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施すること。
- (14) 本剤は自動車に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意すること。
- (15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (16) 取扱及び保管上の注意、漏出時の措置、廃棄上の注意、輸送上の注意、火災時の措置については、11ページ、12ページを参照すること。

◆安全使用上の注意

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。皮膚に付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4) 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

◆魚毒性

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないように適切に処理すること。